

公衆衛生学(第1回, 1/Oct/2012)
中澤 港 (minato-nakazawa@umin.net)

授業のテーマと到達目標

「公衆」、即ち、地域社会で普通に生活している人々、あるいは各種機能集団の人々の健康を保持増進するための理論と方法について学ぶ。

「健康」定義は実に難しいし、保持増進するための理論と方法といっても、社会条件や健康観が違えば違ってくるので、社会の文脈が重要。その話で論じられている「公衆」がどういう集団を指しているのかという点には常に注意すべき。

授業の概要と計画

- 1) 公衆衛生学とはどういう学問か?
- 2) 健康について改めて考えてみる
- 3) 公衆衛生行政と保健統計
- 4) 医療法と医療制度
- 5) 地域保健
- 6) 母子保健・学校保健
- 7) 老人保健
- 8) 国際保健
- 9) 疾病統計・疾病予防
- 10) 衣食住の衛生
- 11) 感染症とその予防
- 12) 産業保健
- 13) 精神保健
- 14) 生活習慣病あるいは社会環境病
- 15) 環境問題と公害

(注)看護 2 年は金曜に疫学があるので、この講義では疫学・生物統計学は扱わない。

成績評価と基準

「期末試験による」とシラバスに書いたが、ミニレポートによる出席点も併用する。

参考書・参考資料等

*鈴木庄亮・久道茂(監修)辻一郎・小山洋(編)『シンプル衛生公衆衛生学 2012』南江堂

1) 公衆衛生学はどのような学問か?

(A) 本質論

英語では public health

-logy でない

-ics でもない

専門家は public health *worker* とか public health *officer*

(B) 教育制度論

日本の大学には伝統的に医学部に公衆衛生学教室が存在したし、医療関連職の国家試験でも衛生・公衆衛生分野は大きい(そのため、この講義でも参考書の内容はカバーする)、大学によって研究内容はバラバラだしテキストによっても異なる。

国際的には、「医学や公衆衛生学」という扱いで医学と並列。米国でも Medical School と School of Public Health は別物(両方入って MD と MPH の両方を取得する人も増えてきているが)

途上国の保健省の職員は、Health Science の学位は欲しがらない。MPH や DPH が欲しい。日本でも専門職大学院として平成 15 年から公衆衛生学の大学院ができた。しかしまだ東大、京大、九大、長崎大、帝京大のみ。しかも日本語必須。

現状、途上国から MPH 取得のため日本に留学したいという照会があっても断る(タイの Mahidol University などを紹介する)しかない。

(C) 内容論

米国には独法としてワシントン DC に Council on Education for Public Health (<http://www.ceph.org/>)があり、公衆衛生プログラムや大学院の認証を行っている。この組織が公衆衛生学の学位を出すためのプログラムにコア知識として求めるのは以下。

1. 生物統計学:健康に関連するデータの収集、蓄積、抽出、分析、解釈。健康関連の調査や実験のデザインと分析。統計学的データ解析の概念と実践
2. 疫学:ヒトの集団における疾病、障害、死亡の分布と決定因子。ヒトの集団の特徴と動態。疾病の自然史と健康の生物学的基礎
3. 環境保健学:コミュニティの健康に影響する生物学、物理学、化学的な要因を含む環境要因
4. 保健サービス管理学:健康と公衆衛生の計画、組織、行政、管理、評価と政策分析
5. 社会科学と行動科学:公衆衛生上の問題の同定と解決に関連した社会科学と行動科学の概念と方法

さらに、系統的な実習を通して実践スキルを身につけることも必要であり、実際に専門家として直面するような問題に対して知識と実習経験を総合して対処する総合研修をクリアしなければならない。

日本の保健学系の大学院では 1 と 2 と 4 と 5 が弱い。

(D) 歴史論

衛生 = 「生命や生活をまもる」

個人の生命や生活をまもる方法論として

*江戸時代「養生」(貝原益軒「養生訓」1703年)

*明治時代:長与専斎が欧州視察で生命や生活を守る概念として使われている hygiene の考え方が社会基盤整備を含み、集団を対象としていることから、敢えて「養生」を転用せず、「衛生」を訳語とした

公衆衛生:第二次世界大戦後、占領政策の一環として医学教育に組み込まれた public health (health には健康という訳語が既に当てられていたけれども、public health の訳語は公衆健康とはされず、公衆衛生学となった)。ウィンスロウ (C.E.A. Winslow; WHO) の定義(1949)「公衆衛生は、共同社会の組織的な努力を通じて、疾病を予防し、寿命を延長し、身体的・精神的健康と能率の増進をはかる科学・技術である」。内容としては、環境保健、疾病予防、健康教育、健康管理、衛生行政、医療制度、社会保障があげられている。

*公衆衛生学も衛生学も集団の健康についての学問。衛生学 hygiene はヨーロッパ生まれの基礎科学。公衆衛生学は米国生まれの**応用科学**。普通に生活する健康な人々を対象とするが対象とする人々の種類によって母子保健、産業保健などに分かれる。